



第7章

史跡由義寺跡の活用

第1節 活用の方向性

第2節 活用の方法



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章



第1節 活用の方向性

「活用」の基本方針
I. 史跡由義寺跡の本質的価値を伝える活用を推進する。
II. 歴史資産としての活用を推進する。
III. 地域の魅力を創出する空間としての活用を推進する。

上記の基本方針を達成するための「活用」の方向性は以下のとおりである。

【方向性】

- I. 史跡由義寺跡の本質的価値に加えて、古代寺院である由義寺が有する歴史的な価値等を普及啓発する。特に調査研究により明らかになった価値を市民と共有するための活用を検討する。
- II. 八尾市の歴史資産として活用できるよう、学校教育、社会教育、地域などの対象を分けた活用方法を検討する。
- III. 地域での活発な利用を視野に入れた魅力ある空間としてのあり方を検討する。



第2節 活用の方法

活用の方法について、学校教育、社会教育、地域など対象ごとに検討する。

検討にあたっては、史跡への関わりの度合いを「知る」→「見る」→「調べる」の段階を経ることによって、より多くの人に史跡由義寺跡の本質的価値を伝え、継承していくための活用を目指す。

「調べる」の段階では、史跡由義寺跡の本質的価値の理解から、史跡が保存された意義を見出すことができるよう支援する。さらに、史跡由義寺跡の保存活用を通じて、史跡を「支える」人の育成につなげていく。

また、現状、史跡由義寺跡は一部の供用だが、本格的な史跡整備での活用を想定するとともに、現時点で実施可能な活用方法を検討し、継続的に実施していく。

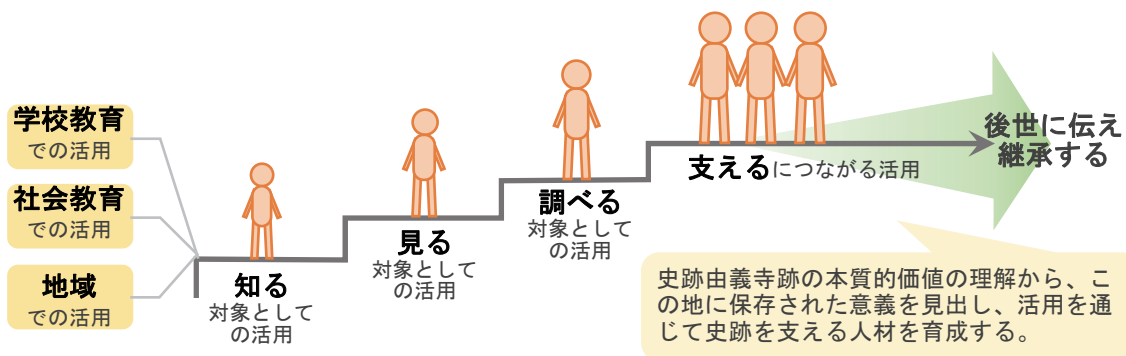


図 7-1 段階的な活用

(1) 学校教育における活用

- ・市内外の子どもたちが史跡由義寺跡の本質的価値を理解できるよう、可能な限り学習カリキュラムの中に位置付ける（教科書の記述を参考にして、地域の歴史の一つとして学ぶ）
- ・現地での塔基壇やガイダンス施設での瓦等の出土遺物の見学
- ・由義寺と歴史資産をセットにして、市域の歴史への理解を深める学習プログラムを提供
- ・歴史学習としての遠足や校外学習における活用

表 7-1 「学校教育」における活用の取組例

段階的活用	内容
①知る	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡由義寺跡の学校カリキュラム（社会科・表 7-2 参照）への位置付け ・史跡由義寺跡を紹介した映像等の教材の作成 ・称徳天皇と道鏡の事績等を紹介し、由義寺の評価につなげる冊子（副教材等）を作成 ・由義寺と関連する歴史資産の理解を深める学習プログラムの提供
②見る	<ul style="list-style-type: none"> ・学校カリキュラムや校外学習の一環として現地を見学できるような整備 ・歴史学習と一体となった遠足を企画
③調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・小、中学校、高校生の学習や大学等の研究フィールドに対応した情報の提供
④支える	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の歴史に関連するようなクラブ活動等への支援及び連携



(参考) 活用の事例



図 7-2 大学との連携による「国指定史跡由義寺跡の活用デザインの創造」



図 7-3 しおんじやま古墳学習館での校外学習
提供：NPO 法人歴史体験センター楽古

(参考) 表 7-2 学校カリキュラムの対応

学年 教科	時期	単元	学習内容	学習のねらい
小学校 6年生 社会科	5 月	貴族の政治 と暮らし	奈良の大仏 にこめられ た願い	大仏をつくったころの世の中について調べ、聖武天皇が仏教の教えによって国を治めようとしたことを考えることができる。
			大仏づくり を支えた 人々	大仏づくりを支えた人々のはたらきや行基の功績、当時の農民の暮らしについて調べ、奈良時代の政治や貴族の暮らしには農民たちの支えがあったことに気づくことができる。
中学校 1年生 社会科	9 月	古代国家の 展開	奈良の都と 律令制下の 暮らし	○日本の律令国家のしくみを理解することができる。 ○「税」の視点から当時の人々の暮らしを説明することができる。
			国際色豊か な文化	○天平文化の成立を、仏教の広まりや遣唐使がもたらす唐の文化の影響などを通して理解することができる。
高等学校 日本史 B	5 月	東アジア文 化の影響と 律令制度の 成立	律令体制と その実態	東アジア世界が変動するなか、蘇我氏の台頭をはじめ推古朝を中心とする国政改革、大化の改新・壬申の乱を経て律令国家の形成される過程及び律令体制下の実態について諸資料を基に考察し理解する。
			天平文化	仏教伝来と仏教を基調とする国際色豊かな貴族文化である飛鳥・天平文化を図像・写真資料などを基に理解する。

出典：日本文教出版（八尾市立小学校・中学校使用教科書）
実教出版株式会社（八尾市内府立高等学校使用教科書）



(参考) 高等学校日本史Bでの「称徳天皇」「道鏡」の記載内容
(※称徳天皇及び道鏡に関する記述を下線で表記)

[実教出版]

土地制度の変化と政治の混乱

～聖武天皇が位を孝謙天皇にゆずってからは、光明皇太后の信任を得て藤原仲麻呂(恵美押勝)が権力をふるい、祖父不比等の編纂した養老律令を施行したり、中国風の官職名を用いるなどした。これに対し橘諸兄の子奈良麻呂らが反乱をくだてたが、757(天平宝字元)年に発覚して鎮圧された(橘奈良麻呂の変)。この事件によって、仲麻呂は独裁的な権力を獲得し、758年に淳仁天皇を即位させた。しかし光明皇太后の死後は、孝謙太上天皇(のちの称徳天皇)と道鏡の勢力が大きくなった。追いつめられた仲麻呂は、ついに764年に反乱を起こしたが、失敗して処刑された(恵美押勝の乱)。道鏡は称徳天皇のもとで、太政大臣禪師を経て法王という特別の地位につき、勢力をふるったが*、称徳天皇の死後は勢力を失い、下野薬師寺に移された。～

※宇佐八幡の神託と称して道鏡を天皇にしようとする動きがあったが、和氣清麻呂らによって阻止された(宇佐八幡宮神託事件)。

奈良仏教

～仏教は栄えたが、あいつぐ大寺院の造営は、国家財政窮乏の一因となり、また道鏡のような政治を介入する僧侶の出現は、政界混乱の原因となった。

[山川出版社]

平城京の時代：藤原氏の進出と政界の動揺

～745(天平17)年に平城京に戻ると、大仏造立は奈良で続けられ、752(天平勝宝4)年、聖武天皇の娘である孝謙天皇の時に、大仏の開眼供養の儀式が盛大に行われた。

孝謙天皇の時代には、藤原仲麻呂が光明皇太后と結んで政界で勢力をのぼした。橘諸兄の子の奈良麻呂は仲麻呂を倒そうとするが、逆に滅ぼされた(橘奈良麻呂の変)。仲麻呂は淳仁天皇を擁護して即位させると恵美押勝の名を賜り、破格の経済的特権を得るとともに権力を独占し、大師(太政大臣)にまでのぼった。

恵美押勝は後ろ盾であった光明皇太后が死去すると孤独を深め、孝謙太上天皇が自分の看病にあたった僧道鏡を寵愛して淳仁天皇と対立すると、危機感をつのらせて764(天平宝字8)年に挙兵したが、太上天皇側に先制され滅ぼされた(恵美押勝の乱)。淳仁天皇は廃されて淡路に流され、孝謙太上天皇が重祚して称徳天皇となった。

道鏡は称徳天皇の支持を得て太政大臣禪師、さらに法王となって権力を握り、仏教政治をおこなった。769(神護景雲3)年には、称徳天皇が宇佐神宮の神託によって道鏡に皇位を譲ろうとする事件が起こったが、この動きは和氣清麻呂らの行動で挫折した*1。称徳天皇が亡くなると、後ろ盾を失った道鏡は退けられた*2。

次の皇位には、藤原式家の藤原百川らがはかつて、長く続いた天武天皇系の皇統にかわって天智天皇の孫である光仁天皇が迎えられた。光仁天皇の時代には、道鏡時代の仏教政治で混乱した律令政治と国家財政の再建がめざされた。～

※1：九州の宇佐八幡神が道鏡の即位をうながすお告げをしたが、その神意を聞く使いとなった和氣清麻呂は、逆の神意報告をして道鏡の即位を挫折させた。清麻呂の行動の背景には、彼を支えた藤原百川ら道鏡に反対する貴族たちが存在したとみられる。

※2：道鏡は下野薬師寺の別当として追放され、そこで死去した。

天平文化：天平の美術

～また、称徳天皇が恵美押勝の乱後につくらせた木造小塔の百万塔と、その中におさめられた百万塔陀羅尼もこの時代のすぐれた工芸技術を示している。



(2)社会教育における活用

- ・人々が興味を持ち、理解を深めることができるような講座等の実施
- ・由義寺と関連する歴史資産をストーリー化し、周辺の歴史資産と組み合わせて理解を深めるような情報の提供
- ・現地における歴史イベントなどの開催

表 7-3 「社会教育」における活用の取組例

段階的活用	内容
①知る	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットやホームページ、映像（動画）、広報媒体等の情報発信 ・史跡由義寺跡の本質的価値を伝える生涯学習講座 ・由義寺と関連する他の歴史遺産も含む歴史ストーリーの提供 ・現地における史跡由義寺跡に関する普及啓発のイベント開催
②見る	<ul style="list-style-type: none"> ・現地で塔の規模を見る（体感する）ことができるような整備 ・ガイダンス施設での出土遺物の展示
③調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡由義寺跡に関する資料を整理し、八尾市立歴史民俗資料館や図書館やインターネットなどで提供
④支える	<ul style="list-style-type: none"> ・由義寺関連遺跡群に関する調査研究や保全活動等に参画できる機会設定 ・史跡由義寺跡の本質的価値を伝えることができる人材の育成 ・積極的な社会教育活動の場としての史跡の利用に対する支援

(参考) 活用の事例



図 7-4 ボランティアガイド養成講座
出典：NPO 法人八尾市観光ボランティアガイド



図 7-5 文化財施設での由義寺関連講座
提供：NPO 法人歴史体験センター楽古



(3)地域による活用

- ・ 史跡が地域の誇りとなるような普及啓発事業の実施
- ・ 主体的に史跡を保存活用できる地域の人材の育成
- ・ 地域おこしになるような地域の企業による由義宮や由義寺、称徳天皇、道鏡を活かした商品開発等の誘致
- ・ アクセスの利点を活かしたゲートウェイ（歴史散策の入口）としての位置付け
- ・ 市民の憩いの場としての活用と合わせて、レクリエーション、イベントによる人々の活発な交流を促進

表 7-4 「地域」における活用の取組例

段階的活用	内容
①知る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 由義宮や由義寺、称徳天皇、道鏡と市内の歴史資産を結びつけた情報発信（多言語化） ・ ハイキングコースの設定 ・ イベントの開催（まつり・スタンプラリー・食イベントなど） ・ 憩い、休憩空間の提供
②見る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の広場的な空間として活用を促す
③調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 由義宮や由義寺、称徳天皇、道鏡と地域の歴史の関わりに関する調査研究への支援・情報提供
④支える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡由義寺跡の保全活動への参画の促進 ・ 史跡由義寺跡と市内の歴史資産をネットワークしたゲートウェイ機能の整備 ・ 史跡由義寺跡や周辺文化財のガイドなどの幅広い市民活動とその支援 ・ 憩いの場としての清掃・花植えなどの活動の維持管理ボランティア育成 ・ 地域の活性化につながるイベントの実施（国内交流都市（道鏡ゆかりの宇佐市・和気町など）との連携） ・ 関連商品の開発等事業者による由義寺の活用の促進

（参考事例1）市民会議で出された史跡由義寺跡活用のアイデア

推進市民会議	庁内会議
<ul style="list-style-type: none"> ①歴史資産の活用とは？ ②やおの歴史資産を見に行こう ③④ケーススタディ：もしも、わたしたちの日常に「道鏡さん」を取り入れるとしたら？ ⑤まとめ・総括 	<ul style="list-style-type: none"> ①歴史資産を活用したまちづくり ②文化財をとりまく現状や観光振興の動向、先進自治体事例 ③歴史資産を活用したまちづくりの推進 ④市民会議報告書の刊行

本市の貴重な資源である歴史遺産をどのように活用し、魅力発信できるかを、市民と行政で検討するため、庁内検討会議と推進市民会議を設置した。推進市民会議は、今後、歴史資産の活用が期待される町会などで地域活動をしている方、小学校の校長先生や事業者の方、文化財に関するボランティアの方と公募市民、市役所の公募職員の12名で構成した。



憩いの場：
休憩ベンチ・花壇



教育・活動資源として活用：
遠足・イベントなど



遠足



イベント(道鏡下駄飛ばし大会)



河内音頭

関連商品開発：お土産品（開発）、食イベント（道鏡にまつわる）、ゲーム、
イベントとの連携、市内産業工業製品等（由義寺・道鏡関連商品）制作・販売



道鏡歯ブラシ

道鏡焼き

紅蓼せんべい

道鏡ソフトクリーム

道鏡酒

道鏡焼酎

活用イメージの一例：
道鏡関連市との連携



図 7-6 史跡由義寺跡の活用のアイデア

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章



(参考事例2) 市民活動とともに史跡整備 (安満遺跡公園)



平成31年(2019)3月 1次開園



令和3年(2021) 全面開園予定

出典：安満遺跡公園ホームページ

■市民活動「安満人倶楽部」(あまんどくらぶ)

安満遺跡公園は、「市民とともに育てつづける公園」をコンセプトに計画され、魅力ある公園づくりを目指す市民活動団体「安満人倶楽部」が開園前から様々な活動に取り組み、来園者に楽しんでもらえるイベントやプログラムを企画・実施している。

この安満人倶楽部は、平成31年(2019)3月23日に大阪府高槻市に開園した安満遺跡公園で活動する団体で、2014年度から市民活動プロジェクトとして公園計画地で活動を繰り返し、平成29年(2017)4月に「安満人倶楽部」となった。安満遺跡公園では、安満人倶楽部が主体となって、公園を訪れる方々とともに楽しめるイベントやプログラムを展開しながら、公園の活性化に貢献している。

歴史グループ	弥生時代の文化と暮らしを体験しながら学ぶ活動。
あまプレーパークの会	自由な考えと発想で、冒険あそびを楽しむ場を提供。
自然グループ	園内に生息する植物観察を通じて自然を感じる活動。
古代米グループ	古代米の田植えや稲刈りを体験しながら学ぶ活動。
防災グループ	身を守るための防災について理解を深め学ぶ活動。
ペットグループ	人とペットが共生できる環境を考える活動。
あまマルシェグループ	文化や名店、逸品を紹介し「高槻」を再発見する活動。
竪穴住居グループ	竪穴住居を再現し、弥生文化を学ぶプロジェクト。



図7-7 安満遺跡公園「安満人倶楽部」

出典：安満遺跡公園ホームページ/安満人倶楽部ホームページ